

9

高等学校検定教科書「英語Ⅱ」の題材にみる グローバル・シティズンシップ教育の可能性

長谷川 功 (桐蔭学園中学校・高等学校)

1. はじめに

グローバル化が進む現代において、政治・経済・司法・科学・環境などの様々な分野で国際化が進行し、外国で起こった出来事その日のうちに日本でも影響を及ぼすようになった。またそれに同時に国境を越えてヒトやモノが移動し、各国で多文化社会が進行している。我が国においても従来の在日韓国・朝鮮人のオールドカマーに加えて、1990年の移民法の改正以後、ニューカマーと呼ばれる日系ブラジル人・ペルー人などの労働者が大量に移り住むようになった。法務省入国管理局の統計によれば、2009年12月31日現在、在日する外国人登録者数は218万人を超え、日本の総人口に占める割合は1.71%となっている。今後その割合は増え続け、日本は今まで以上に多文化国家となっていくことは間違いないだろう。

このような現象は日本だけでなく、各国が直面している問題であるが、その結果「国籍＝国民」という図式が成立しなくなり、新たな市民のアイデンティティを育成する必要性が議論されるようになった。日本の学校教育においては公民や総合学習の中で学ばれているのが現状ではあるが、私は「国際言語としての英語」という世界共通のツールを用いることで、より実践的なグローバルな視野を持ったシティズンシップ教育が育まれるのではないかと考えている。

そこで今回は高等学校検定教科書「英語Ⅱ」の題材分析を行い、高等学校中期英語教育におけるグローバル・シティズンシップ教育の可能性について検証することにした。

2. 「グローバル・シティズンシップ教育」とは何か

現代の地球的規模の問題（政治・経済・平和・環境・人口・食料・人権など）は、一つの国だけではもはや解決できない問題であり、自国の利益だけを優先させるのではなく、地球的、全人類的立場から責任ある行動を選択する「地球市民」と呼ばれるグローバル・シティズンシップの形成が重要な課題になっている。

このシティズンシップ形成は、家庭、地域社会、各種団体、マスメディアなどを通じて行われるが、最も体系的で計画的な役目を担っているのはやはり学校教育においてである。しかし我が国の学校教育のカリキュラムは、必ずしもグローバル・シティズンシップの視点が十分ではない。また各教科間の連携もほとんど見られない。21世紀の学校は、価値観や文化の対立を調整できるようなコンピテンシー（能力）の養成ができるような機会を与えるようにしなくてはならない。

3. 「英語Ⅱ」の題材にみるグローバル・シティズンシップ教育

3-1 題材の分析方法

英語Ⅱの教科書の発行現状は、2010年現在で16社36種類にも及び、義務教育課程である中学校検定英語教科書の発行体制6社6種類と比べると、多数の教科書が出版されている。またレベルにおいても中学校の教科書の復習に重点を置いたものから、レベルの高いものまで多岐に渡る。さらにその採択シェアは最高でも9.9%であり、一番少ない場合は0.1%と99倍もの開きがある。よってこの論文の分野分析は全体について行ったが、影響力があると思われるシェアの高い教科書を中心に行うことにした。

次にグローバル・シティズンシップの切り口を、①異文化理解・多文化共生 ②自文化 ③人権・先住民族 ④開発・南北問題 ⑤環境・資源 ⑥平和・反戦 ⑦その他 の大きく7つに分類し、教科書のレッスンとして取り上げられているもののみを分析した。また当然のことながら、内容によっては複数の切り口がある場合が考えられるが、その場合はより切り口の大きいもののみを一つとしてカウントした。なお分析結果は別途資料（4枚目）のようになった。

3-2 異文化理解・多文化共生の視点からの題材

この内容を扱ったものが全36冊中33冊の91.7%と二番目に多い結果となった。中学校の頻出テーマである3F（Food, Festival, Fashion）と比べると、英語のグローバル化と危機言語、カナダの多文化化、異文化コミュニケーションギャップなど、当然ながら内容も深く掘り下げたものになっている。

異文化理解・多文化共生の視点からグローバル・シティズンシップ教育を推進するためには、お互いの文化や習慣を理解し、またその優劣はなく、違いを豊かさに導くことが基本的な考え方であろう。しかしながら扱った内容の中で、中東などのイスラムに関する題材が、ほとんど皆無であることは大変残念である。このことは現代のイスラム文明の理解不足を生む要因にもなり、また生徒に正確な必要な情報が伝わらないことにもなっている。エネルギー問題を中心に中東イスラム世界の協力なしには、我々は日常生活をすることは難しい。今後はイスラム社会についての題材を積極的に扱うように各社にお願いしたい。

3-3 自文化の視点からの題材

自文化の視点からグローバル・シティズンシップ教育を推進するためには、まず自民族中心主義から一度脱却し、自己の所属する文化を客観的に見る態度を養成し、異文化に所属する相手に対して自らを英語で発信するコミュニケーション能力が求められていると考えられる。

3-4 人権・先住民族の視点からの題材

少数民族、黒人奴隷問題、女性の人権などがテーマとして扱われている。人権・先住民族の視点からグローバル・シティズンシップ教育を推進するためには、今後はアイデンティティの問題とも関連して指導することが大切であると思われる。

3-5 開発・南北問題の視点からの題材

この分野の題材としては、国境なき医師団、ユニセフ、児童労働、人口問題、貧困問題に取り組むNGO、アーティストのアフリカ救済活動など、数多くのアプローチがある。よって生徒たちにとって興味があると

ころで掘り下げることが可能である。ただここで大切なのは、ただ単に「可哀そう」とか「日本人でよかった」などと感情論で終わるのではなく、それらの原因を追究し、同じ「宇宙船地球号」のクルーとして、グローバルな視点で他国と協力して問題解決をする姿勢であろう。また国家間での協力にも限界があり、NGOやNPOとの連携も不可欠になってきている。そんな中で高校生のような小さな力でも大きな力になることを実感させたい。まさにグローバル・シティズンシップ教育が目指す Think globally, act locally. の精神が求められているのだ。

3-6 環境・資源の視点からの題材

全36冊中35冊、97.2%の教科書で扱っている内容で、最も多いテーマとなった。その題材として最も多かったのは、ケニアのマータイさんの植林活動と「モッタイナイ」という言葉を広めた活動についてである。他には、生態系・熱帯雨林・水・遺伝子組み換え食品・メタンハイドレードなど多岐に及ぶ。

3-7 平和・反戦の視点からの題材

この視点からの題材で最も多かったのは「地雷」である。クリス・ムーンや、故ダイアナ妃の活動や、各国の戦争の悲惨さを伝えるものが多い。

3-8 その他の視点からの題材

その他の視点からの題材としては、世界遺産・メディアリテラシーがある。とかく高校生はテレビやインターネットなどのメディアに盲目的であり、ステレオタイプが増長される危険性がある。グローバル・シティズンシップをきちんと身に付けさせるには、メディアに対しても批判的に視ることを伝えなければならない。

4. 今後の「英語Ⅱ」におけるグローバル・シティズンシップ教育の課題

前章では様々な視点からのグローバル・シティズンシップ教育の可能性について分析をしたが、これはあくまで便宜上に分類しただけであり、実際はこれらの視点が単独であることよりも、政治、経済、宗教、文化、習慣などの様々な問題が複雑に絡みあっているのが現状である。

例えば、ケニアのマータイさんの活動は環境問題に分類しているが、ケニアの女性の人権問題にも関連している。また人口問題などは南北問題に分類をしてみたが、環境問題にも当然関連しているし、カンボジアの問題も開発・南北問題でもあり、地雷を含めた平和・反戦の問題でもある。

現代社会は、世界の諸問題について一国の利害だけでなく、地球市民を意識して問題解決ができるようなグローバル・シティズンシップ教育が求められるようになった。異文化理解や国際交流に留まらず、グローバルな視点を持った責任ある主体的なグローバル・シティズンシップ教育を推進しなければ、21世紀の世界は危機的な状況に陥るといふ危機感がある。その先進研究は EU であり、彼らは各国のアイデンティティと共に、ヨーロッパ人としてのアイデンティティも持ち始めている。日本についても、現状は問題が山積しているが、韓国・台湾・中国などと共に「東アジアシティズンシップ」というアイデンティティの習得を目指すような教育が求められていく可能性もあるだろう。グローバル社会に生きる責任ある新たな市民の育成が、今後の21世紀の教育の課題であり、共通言語というツールを持つ英語教育の責務は大きいと言えるだろう。

「英語Ⅱ」シェア一覧（内外教育 2010年01月26日発行 P. 7より）

*数字はレッスン番号。ただし「VISTA」は2冊あるため、Step1 Lesson 1なら1-1と表記した。

*分野分析は筆者による

順位	発行者	教科書名	冊数	シェア	異文化理解・多文化共生	自文化	人権・先住民	開発・南北問題	環境・資源	平和・反戦	その他
1	三省堂	CROWN English Series II New Edition	113,460	9.9	1 英語のイディオム		2 アボリジニ	3 国境なき医師団	5 火星 7 DNA	8 地雷	
2	三省堂	VISTA English Series II Step One / Step Two New Edition	*82,054 *2冊分延冊数	7.2	1-1 非言語コミュニケーション 1-3 迷信 1-4 インマ 2-3 セバタクロ	2-4 スシ	1-2 アボリジニ 1-6 プエブロ族		2-1 ウミガメ	1-5 グルニカ 2-2 国際平和村	2-6 世界遺産 ナスカ地上絵
3	桐原書店	PRO-VISION ENGLISH COURSE II New Edition	79,983	7.0	4 ムーミン（フィンランド） 7 世界の英語			6 SARS	2 ツバル	10 プラハの春	
4	東京書籍	Power On English II	76,523	6.7	1 世界の醫 8 カナダ 10 世界の英語	3 沖縄			6 水 7 南米森林再生 9 モックナイ		5 インターネットの功罪
5	東京書籍	All Aboard! English II	63,321	5.6	1 世界の多様性 2 シンガポール 7 世界の朝食	3 妖怪 9 活弁			6 モックナイ	11 リリー・マルレーン（戦士に音楽を）	8 マチュピチュ 10 メディア・リテラシー
6	数研出版	BIG DIPPER English Course II	62,354	5.5	1 外国語の学習 2 スポーツのトピ 10 シルクロード（東洋と西洋の架け橋）	7 広重		9 ユニセフ子供への教育とインド児童労働	4 動物園 8 モックナイ		
7	文英堂	NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE II	56,387	4.9	4 ファッション 10 危機言語		6 アメリカ最初の女性国会議員	3 児童労働	2 野生動物 8 クロウン		7 世界遺産イースター島
8	桐原書店	WORLD TREK ENGLISH COURSE II New Edition	54,009	4.7		5 レスキューロボット		2 貧困問題のNGO 3 ブルーナ	4 仮想水 9 熱帯雨林	8 クリスマスの休戦 10 ランドワース	6 メディア・リテラシー
9	東京書籍	PROMINENCE English II	50,002	4.4	9 ノグチイサム	2 インスタントラーメン			1 モックナイ 6 外来生物	10 ドイツの聖母教会の再建	
10	第一学習社	Vivid English Course II NEW EDITION	48,099	4.2	3 危機言語	8 黒澤明監督			4 堀江謙一 7 大陸移動説 9 水		
11	三省堂	EXCEED English Series II New Edition	46,590	4.1	1 世界の挨拶	5 金子みすゞ	8 アボリジニ		3 海の生き物	4 高校生原爆ドーム作り世界に拡大	9 メディア・リテラシー
12	数研出版	Revised POLESTAR English Course II	42,519	3.7	1 海外旅行のマナー・ジェスチャーなど 4 戸田奈津子・字幕翻訳	7 ゴッホと浮世絵		3 国境なき医師団	8 遺伝子組換え食品		
13	杏林館	ELEMENT English Course II	36,379	3.2	1 ダーリンは外国人	7 日本の旅館	2 エチオピアの女性の権利と教育		4 食料 5 メタンハイドレート 9 熱帯雨林		10 情報とコミュニケーション